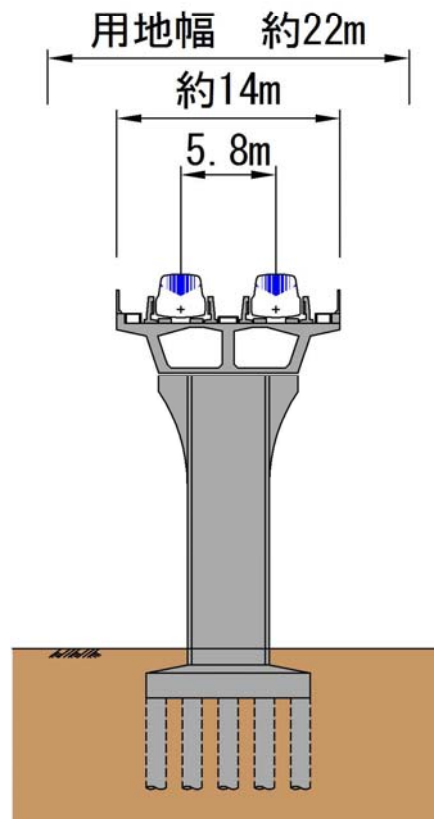
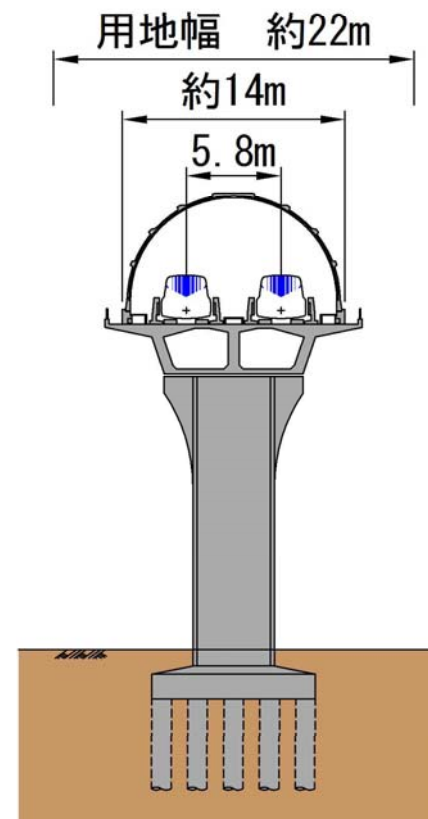


リニア車両が走っている姿を直に見ることができる場所はどこですか。

- 岐阜県の路線約55kmのうち、地上区間は約6.5kmであり、そのうち防音壁設置区間では車両を見ることができますが、具体的には、現在の土地利用状況等を踏まえて、今後、県をはじめ地元自治体等と調整してまいります。
- なお、岐阜県駅付近は、車両基地への回送線があり、駅部も含め回送線を走るリニア車両を見ることができます。



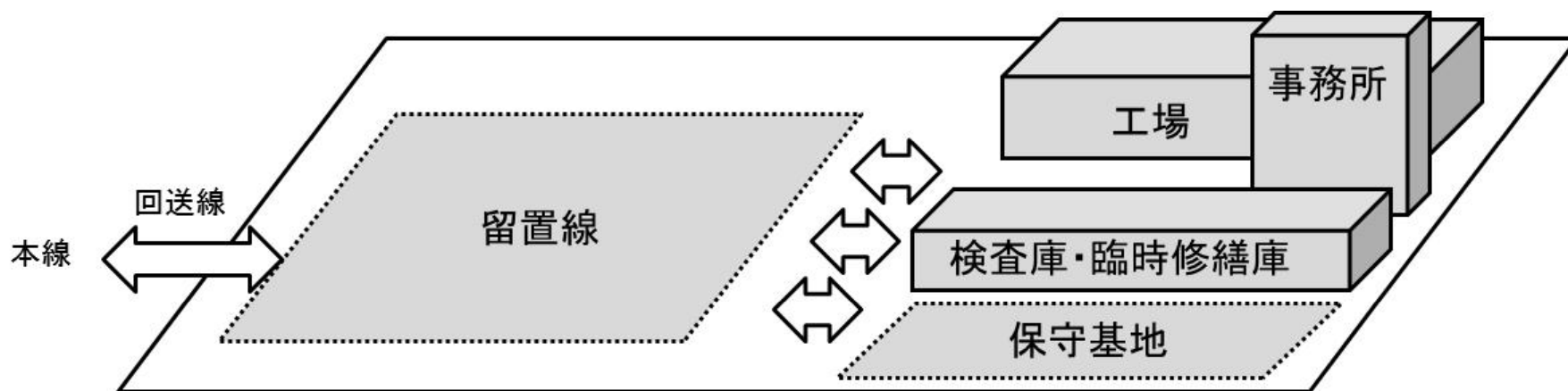
防音壁設置部



防音防災フード設置部

## 中部車両基地(工場)の概要、業務内容を教えてください。

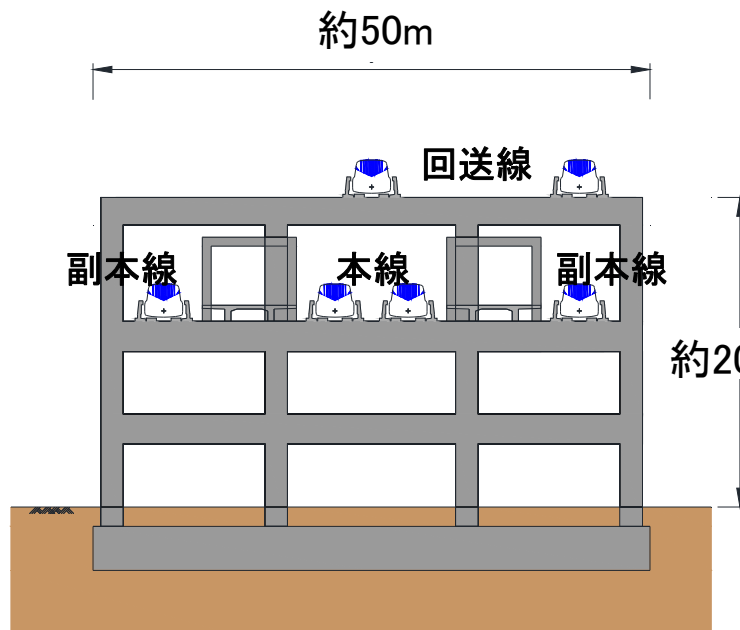
- 中部車両基地(工場)には、車両の留置、検査、整備等を行うため、留置線、検査庫、臨時修繕庫等の設備及び工場を設置します。
- 工場では、車両の全般検査(車両を分解して修理する検査、いわゆるオーバーホール)をはじめとする検査、修繕を行います。
- 中部車両基地(工場)の詳細な計画は、現在、長方形でお示ししている範囲内で、今後決定していきます。
- なお、中部車両基地(工場)には保守基地を併設します。



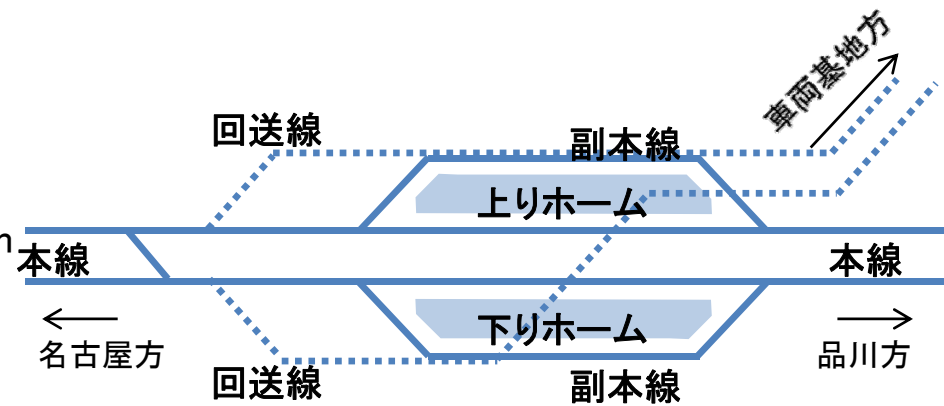
中部車両基地のイメージ

## 岐阜県駅はなぜこれだけの高さとなるのですか。

- 左下の断面図のように、岐阜県駅の本線及び副本線の上に、中部車両基地(工場)と本線を結ぶ回送線を設置するためです。
- 中部車両基地(工場)は、岐阜県駅より標高が高い丘陵地に設置を計画しており、駅からの距離も短いため、回送線は、右下の平面図のように駅の名古屋方で本線から分岐し、上り勾配で進み、駅の上部を通過し、引き続き上り勾配で中部車両基地(工場)へ向かいます。



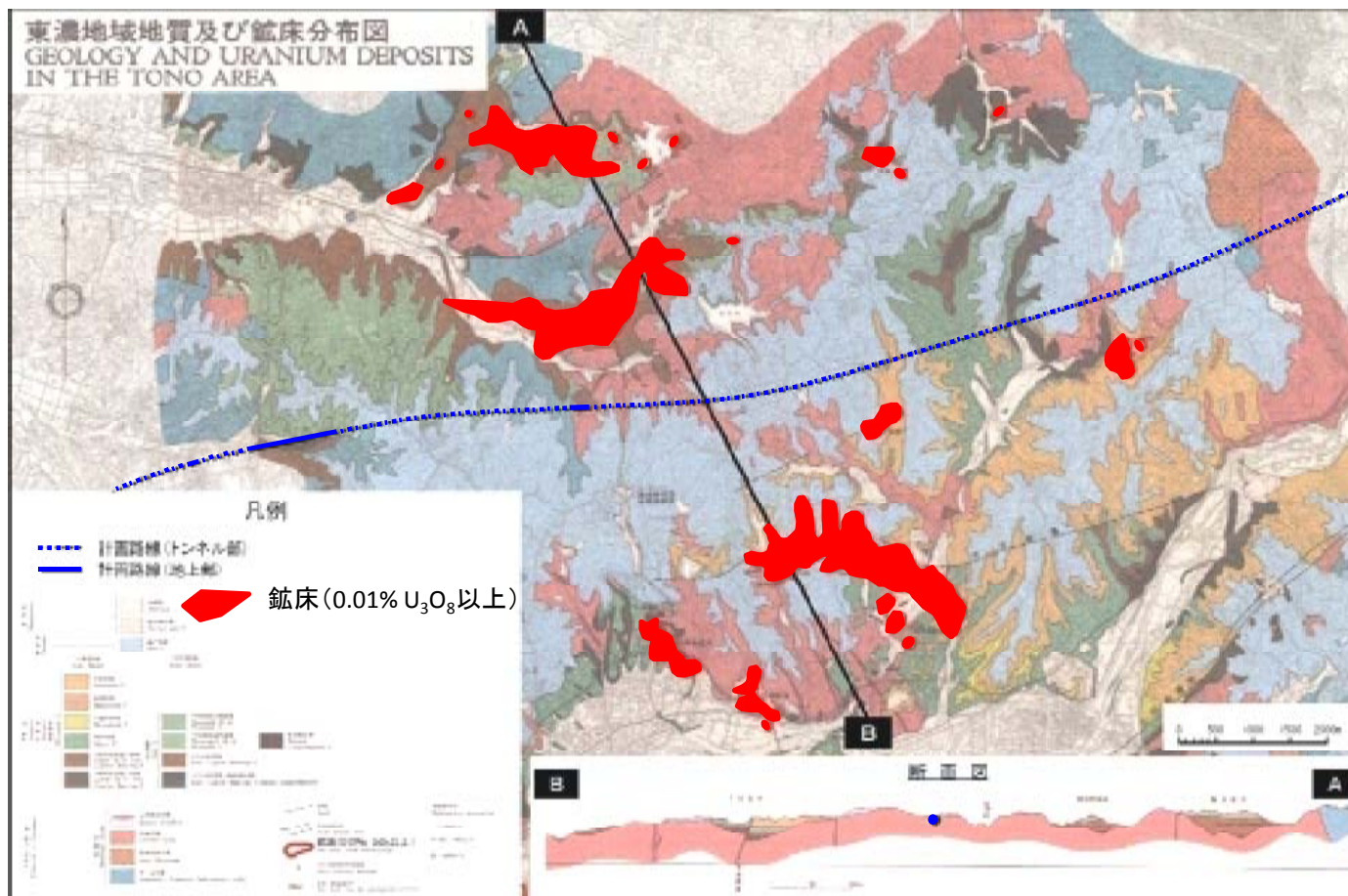
断面図



平面図

ウラン鉱床の範囲は、旧動燃が調査した資料だけで把握したと言えるのでしょうか。

- 独立行政法人 日本原子力研究開発機構(旧動燃)は、国の政策としてウラン資源の探査を目的に、航空機による広域的な調査を踏まえ、地上からの詳細な調査においては50m間隔でボーリングを行うなど、科学的に十分な調査が行われています。
- 路線は、旧動燃が調査した「日本のウラン資源」に示されたウラン鉱床を回避しています。



出典：「日本のウラン資源」(旧動燃)に一部加筆

ウラン鉱床の分布と路線計画の関係



## 黄鉄鉱を含む発生土への対応について教えてください。

- 過去に東濃地域のトンネル工事で、美濃帯を掘削した土砂の中に含まれる黄鉄鉱に起因して、硫酸等の酸性水や溶出した重金属等が発生土処分場から流出した事象が発生したことは承知しています。
- 工事の際に、定期的に掘削土の調査を行い、黄鉄鉱や重金属が確認された場合は、関連法令等に基づき適切に処理・処分いたします。



出典：鉄道建設・運輸施設  
整備支援機構  
環境報告書2010

トンネル掘削発生土を遮水構造の二重シートで覆った後、緑化した事例  
(東北新幹線 八甲田トンネル)